



OGS
新年互礼会
を開催

第86回ジャグラ全国大会
に向け決意新たに

1月15日、組合員および賛助会員約80名が参加する新年互礼会を、大阪市北区のウエスティンホテル大阪にて開催しました。

開催挨拶は小幡理事長です。いよいよ本年6月に大阪で第86回ジャグラ全国大会が開催されることに触れ、木原実行委員長のもと、準備が着実に進んでいることが報告されました。また、賛助会員をはじめ関係各社の協力により協賛金が集まり、会場ホテルとの交渉の成果もあって会費を抑えることができたことへの感謝が述べられました。大会に向けては、ゴルフ大会や懇親会、旅行など多彩な企画を近畿・大阪のメンバー一同で検討しており、目標参加人数400名に向け、多くの参加を呼びかけました。



開催挨拶
小幡利之理事長



来賓挨拶
近畿経済産業局
三小田浩子様

来賓挨拶として、近畿経済産業局産業部サービス・コンテンツ産業室の三小田浩子様よりご挨拶をいただきました。昨年の大阪・関西万博は、国内外から約2900万人が来場する一大イベントとなり、関西企業や地域産業の魅力発信、国際的なビジネスネットワーク構築に大きく貢献したことが紹介されました。その成果を一過性に終わらせず、関西経済の持続的成長や国際展開につなげていく重要性が語られるとともに、当組合が人手不足への対応や技術力向上、デジタル化に継続的に取り組んできたことへの敬意が示されました。また、全国大会のテーマ「未来を創ろう 叡智の台所」に込められた、新たな価値創造への挑戦の意義についても言及されました。



来賓挨拶
ジャグラ本部
岡本泰会長



来賓挨拶
大阪府商工労働部
児玉勇樹様

続いて、大阪府商工労働部中小企業支援室ものづくり支援課の児玉勇樹様から、経済対策や中小企業支援への取り組みについてご挨拶をいただきました。

ジャグラ岡本泰会長からは、会長就任以降、印刷業界10団体の中でも「ジャグラは一番元気だ」と評価される存在を目指してきたことが語られました。リーダーの責任を果たすとの考えのもと、任期満了となる大阪大会以降の体制についても自身の役割を考えていきたいとし、印刷業界全体の発展に向けた想いが述べられました。特に、



乾杯
大阪府印刷工業組合
山本素之副理事長

5人から10人規模の中小企業が生産性向上の光明を見いだせるよう、今後も本部として方策を追求していきたいとの力強いメッセージが印象的でした。

乾杯の発声は、大阪印刷工業組合副理事長の山本素之氏が務められ、和やかな歓談へと移りました。歓談中には、木原実行委員長をはじめ大阪大会実行委員が登壇し、横断幕とのぼりを掲げながら「10年後に振り返って良かったと思える大会にしたい」と述べ、壇上の皆で「頑張ろう」とシュプレヒコールを行い、会場は大いに盛り上がりしました。

中締め挨拶は、大阪グラフィックサービス協同組合賛助会会長で株式会社モトヤの古門慶造社長が務められました。印刷業界における補助金活用の現状に触れつつ、賛助会として、組合員各社が良い設備を導入し、良い仕事でしっかりと稼げるよう、今後も全力で支援していきたいとの言葉で、新年互礼会は盛会のうちに締めくくられました。

(OGS 理事 田中幸恵 ホウユウ(株))

昨年 OGS に入会された有限会社立花製本の見学会が年明け早々の1月22日、平成会主催で開催されました。紙の市場が縮小する中それでも必ず必要となる紙媒体。外部環境が大きく変化していく今、製本会社としてどのような事業展開をされているのか、平成会会員とともに経営を学ぶ貴重な機会となりました。

(株)遊文舎 OGS 副理事長 木原庸裕



印刷製本の マーケットが縮みゆく中

製本会社はコロナ禍を経て大きく減少しています。弊社の大阪の取引先だけでもこの4年で5社無くなっています。中には市場の縮小を逆手にとりて営業エリアを増やし、積極攻勢によるシェア拡大で売上を維持拡大している会社（全国区ですが）も少なからずあります。対して大阪の大淀エリアという、都心部とはいえ地場密着型の製本会社がどういった取り組みをされているのか。平成会員一同と共に知的探求心に駆られつつ現地入りしました。

設備投資され 大口案件も安心

開業は昭和35年。以降、拡張を繰り返され現在の社屋は昭和56年竣工、更に平成13年に隣接地にて増床。この増床部分だけでも築25年になりますので見学した社屋もそれなりに年季が入っていました。必要などころには補修改装が施されており、社屋の中心には堅牢かつ巨大なエレベーターも。環境整備と動線改善にはかなり力を入れてこられた歴史がうかがえます。

設備としては、断裁機が3台、折丁の無線綴じ機（18コマ）がフル検査装置付きで1台。中綴じ機十三万断裁（スレ検知・乱丁検知）が6鞍

及び4鞍が1台ずつ。その他ミシン、折機、筋入れなど一通りのラインナップが揃っています。

設備面で目を引いたのはWリングラインで、会社の特徴を売り出す目的で近年最も力を入れているそうです。最新の無線綴じ機は更新して2年。折機も新しく、設備投資にかなり積極的です。品質へのこだわりは証左と言えます。顧客情報の管理にも相当気を使っています。重要な案件、大口の案件も安心してお任せできると感じました。

急きょ登板された 立花社長

代表の立花弘子社長は昭和44年生まれの57歳。現会長のご子息と25歳で結婚され、4子に恵まれ忙しくも賑やかで幸福な生活を育んでおられたと思います。しかし平成25年1月にご主人が他界されるという晴天



平成会宇野会長から立花社長へ記念品の贈呈

立花製本★主な現有設備

- 無線綴じ機
芳野YMマシナリー製(15鞍) 1台、
乱丁検査装置付き(ホリゾン製
BQ160)
- 中綴じ機
PBM製(6鞍)1台/三光精機製(4
鞍)1台
※いずれも乱丁検査装置、三方断裁(スレ
タレ検知装置付き)
- 断裁機
勝田製作所製 3台
- 折機
正栄機械製 7台
- ダブルリング製本機
笹岡工業製 1台/JBI製 1台
- その他
ジャンプ対応ミシン機/穿孔機/筋入れ
機/貼り込み機/スリッ差し込み機

の霹靂の事態に見舞われます。育ち盛りの4子とともに相当ご苦労されたことと思います。そのような中、現会長から次期代表を打診されます。かなり思慮されたそうですが、歴史ある会社と従業員を守るためこれを快諾。積極的に会社を改革され情報収集とご自身を更に高めるべく組合活動にも積極参画されています。その流れで当組合にもご加入いただきました。

今回久しぶりの工場見学ということもあり、ご無沙汰会員や参加社との霹靂の事態に見舞われます。育ち盛りの4子とともに相当ご苦労されたことと思います。そのような中、現会長から次期代表を打診されます。かなり思慮されたそうですが、歴史ある会社と従業員を守るためこれを快諾。積極的に会社を改革され情報収集とご自身を更に高めるべく組合活動にも積極参画されています。その流れで当組合にもご加入いただきました。

負担大きい繁閑格差の 調整弁は…

特に議論が白熱したのはあらゆる産業共通の課題と言えますが、いわゆる「繁閑格差」の問題でした。立花製本も10月～翌3月までの繁忙期とその他の閑散期の差が激しく、今の時期の仕事は請けきれないけど夏の暇な時期はなんでもできるよ、とのこと。しかしそれはほぼ9割の印刷関連会社に当てはまります。繰り返しますが市場が縮小する中でプレイヤーも減少しており、3月の年度末繁忙期の過酷さが例年にも増してきていると頭をかかえる会社も



無線綴じ・中綴じラインを見学

目先の利益より品質・信用遵守！

大阪都心の～抜群の立地で～心地よい社風吹く～

残業ゼロを目指し、貫く社員ファースト



工場1階での見学

多いことでしょう。
特に製本職は技術職です。正社員
人数を閑散期にあわせ、繁忙期は臨
時スタッフで対応というわけにはい
きません。また営業、制作、刷版、
印刷、製本と全ての工程を請け負っ
ている総合型の印刷会社であれば、
どこかの工程を圧縮して調整するこ
とは比較的やりやすいと思いますが、
最終工程の製本で顧客の印刷会社の
搬入がギリギリ直前の場合がほとん
どといった製本会社の場合、自社で
の調整弁機能は限定的です。そのよ
うにしわ寄せが行きやすい最終工程、
特に負担がかかりやすいこの時期、
どのように調整されているのか、参
加者の関心が高まります。

立花社長曰く、今いてくれるス
タッフと対話し、関係性を大切にす
ることによって会社の品質と信用を
守ることを重視し、最繁忙期にお
いてもスタッフにお願いする残業は
最大一日2時間、将来的には残業ゼ

印象的なのが、スタッフの皆さん
が明るく、見学者に対してとても好
意的だったことです。こちらから尋
ねてもいいのに設備やフロアの説
明、業務課題などを親切にご説明い
ただき恐縮しきりでした。立花社長
が現業経験に乏しく技術に明るくな
いのはある程度事実だと思いますし、
社長自らが最前線プレイヤーである
ことがほとんどの製本会社において
一つ間違えればそれは職人の離反を

従業員ファーストだから
できた素敵な社風

口の体制を目指しているとのこと
です。売上や利益との兼ね合いがとて
も難しいところですが、目先の利益
を追いつめるよりも従業員ファース
トの経営姿勢に大いに共感いたしま
した。



自社について語る立花社長

次ページに続く▶

立花製本ステートメント 配布資料

弊社が出来る製本加工技術とは

- ダブルリング綴じ
- ジャンプミシン、筋入れ
- 中綴じ
- マイクロミシン
- 平綴じ
- (E・F・H・I・L・T・コ型)
- 無線綴じ
- 折り加工

弊社が出来る製本とは

- カレンダー（卓上、壁掛け）
- 学習教材、各種カタログ
- パンフレット（ポケット貼り可）
- 入学、会社案内
- 取扱説明書
- 便箋、メモ（ブロックメモ含む）
- 資料のセットや封筒入れ、折込作業
- 書籍など

弊社は【製本ビジョン2030】に賛同し動き出します

- 次世代の若い人に製本の必要性と技術の素晴らしさを伝授します。
- 自社の技術を再認識し広める場を作ります。
- 受け身の仕事から自社の強みをアピールし一歩前に踏み出す努力をします。
- 自社の製本技術＋アイデアで商品化を目指します。
- 地域・社会に根付く企業を目指します。

2月の活動予定

状況により中止・変更の可能性もあります

1	日
2	月
3	火
4	水
5	木
6	金
7	土
8	日
9	月
10	火
11	水
12	木
13	金
14	土

ジャグラ文化典 近畿・大阪大会

6月19日(金)～22日(月)

！総会・文化典・記念式典・懇親会等は20日(土)！

15	日
16	月
17	火
18	水
19	木
20	金
21	土
22	日
23	月
24	火
25	水
26	木
27	金
28	土

3月以降の予定

3月17日(火) OGS 役員会 18時 JP ビル 8 階会議室
4月14日(火) OGS 役員会 18時 JP ビル 8 階会議室
6月19日(金)～22日(月)
ジャグラ文化典 近畿・大阪大会
総会・文化典・記念式典・懇親会等は20日(土)

役員会報告

日 時：2026年1月15日(木) 16：30より

場 所：ウエスティンホテル大阪

出席者：小幡理事長、岡副理事長、木原副理事長、黒木副理事長、
佐藤専務理事、大家理事、田中理事、東條理事、中田理事、
橋本理事、宗次理事、山本理事、杉浦監事
オブザーバー：平成会 宇野会長

報告事項 その他

【本部報告】

- ・ジャグラ作品展への出展のお願い(1社1点の協力要請)

【近畿地協】

- ・2月20日(金)京都府支部担当の幹事会・勉強会・懇親会
※詳細は別途チラシでご案内
- ・地協総会については次回(2月20日)に大阪大会の終了後の日程で検討

【OGS】

- ・OGS 総会については次回役員会(2月17日)で確定させる

【青年部】

スペース21

- ・2月20日(金)甲府でキャラバン企画
- ・4月18日(土)に高松で総会開催予定

平成会

- ・立花製本さん見学会(1月22日(木)開催)について

【2026ジャグラ近畿・大阪大会】

- ・協賛広告、来賓関係、後援名義申請、祝辞、大会パンフレット作製、ゴルフ・研修・前夜祭・旅行部門等についての進捗状況報告と確認
- ・大会の申込管理システム等の委託先選定について

・1月新入会

(有)ディーティーピーセンター

代表取締役 清水善幸氏

- ・代表変更 大享印刷(株)

新代表取締役社長 河合威征氏

前社長 五十嵐嘉和氏は相談役に

招く致命的な弱点となりかねません。しかし立花製本はそうではなく、この社長を支えて皆で仲間と一緒にやっていこうという心の声が聞こえてくるようでした。

事後の懇親会でもその話題になりました。スタッフが発見し、それを社長が高圧的に押さえつけ、さらに反発を招くという悪循環に陥る、というありがちな事態にならずにまるでイソップ童話の北風と太陽を地でいくような素敵な社風を作り出している源は何なのか。立花社長の人柄のなせる業なのか、あるいは意識的にそういう社長を演じることが出来る類まれな経営スキルの持ち主なのか。いずれにしても賞賛に値する人。心掌握術です。参加者各位にも大きな気づきの機会となりました。また立花社長ご本人にとっても、この見学会がおそらく何らかの新たな知見を得る機会となったのでは、と感じました。

※平成会では宇野会長のもと今後このような前向きな見学研修を積極的に実施し、会員各位の社業発展への寄与を目指す、「仕事をやる平成会」のコンセプトで刺激的な企画をどんどん打ち出していけることとします。今回ご出席いただけなかったOGS組合員も、次回は是非ご参加くださるようお勧めします。